

令和 6 年度

学 校 評 価 結 果

郡山医師会 郡 山 看 護 専 門 学 校

【 看 護 学 科 】 【 准看護学科 】

一 目 次 一

【学校評価 の 実施概要】 3 ページ

《 総 括 》 4 ～ 5 ページ

看護学科 6 ～ 10 ページ

准看護学科 11 ～ 15 ページ

【学校評価の実施概要】

(1) 評価項目 / 設問数 合 計 中項目 10 / 小項目 22 / 設問 47 ※災害時 49

【教育活動】 中項目 5 / 小項目 11 / 設問 24

- | | | | |
|--------------------------------|------------------------|--|------------------------------------|
| I 教育課程 (2/4) | 教育ビジョン
カリキュラム | ①教育理念・目的・目標
③シラバス | ②期待する卒業生像
④実習要綱 |
| II 教育指導・評価
(3/8) | 指導内容
指導体制
教育活動評価 | ⑤⑥学内授業/臨地実習内容・指導方法
⑧インシデント対応
⑪教員評価 | ⑦授業準備
⑨人権への配慮
⑩学習支援
⑫学生評価 |
| III 資格取得対策 及び 就職・進学支援
(2/3) | 国家試験・資格試験対策
就職・進学支援 | ⑬国家試験・資格試験対策
⑭就職支援 | ⑮進学支援 |
| IV 教科外指導 (2/5) | 特別活動
生活・保健指導 | ⑯特別活動支援
⑰生活指導 | ⑱自主活動支援
⑲保健指導
⑳学生相談 |
| V 人材育成 (2/4) | 研 修
自己研鑽 | ㉑研修受講促進
㉒自己スキル向上 | ㉓学びの共有
㉔学び支援 |

【管理運営】 中項目 5 / 小項目 11 / 設問 23 ※災害時 25設問

- | | | | | | |
|-----------------|----------------------|----------------------------|------------------------------|-------------------|--------|
| VI 組織・人事 (2/6) | 管理体制
人事管理 | ㉕設置目的
㉖職員管理 | ㉗組織管理
㉘職場教育 | ㉙連携協力
㉚学生意見の反映 | ㉛あり方検討 |
| VII 事業活動 (3/7) | 事業管理
学生支援
広報強化 | ㉜事業計画
㉝生活支援
㉞周知広報 | ㉟学校評価・改善
㊱学内環境
㊲SNSの活用 | | |
| VIII 財務管理 (2/4) | 予算管理
財源確保 | ㊳予算編成・執行
㊴入学生の確保対策 | ㊵会計処理・決算
㊶財源確保対策 | | |
| IX 施設管理 (2/4) | 施設整備
管理活用 | ㊷設備整備 ※教材を除く
㊸日常管理・安全確保 | ㊹環境整備
㊺施設活用 | | |
| X 危機管理 (1/2) | 体制確保
災害対応 | ㊻予防体制
㊼現場対応 | ㊽防災対策
㊾事後対応 | | |

(2) 評価方法 5段階評価 (5 良い / 4 やや良い / 3 普通 / 2 やや不十分 / 1 不十分)

※ただし、「分からない」の選択可

(3) 評価者 計 18名 管理職(教員)2名、看護学科教員6名、准看護学科教員5名、事務職員5名

※管理職2名(校長・副校長)のうち1名(副校長)は看護学科長を兼任

※管理職(校長、副校長、事務長)の3名は、両学科の評価者

看護学科

11名 管理職(教員)2名、看護学科教員6名、事務職員3名(教育活動評価:対象外)

※事務職員は、事務長及び事務部学科担当職員2名

准看護学科

10名 管理職(教員)2名、准看護学科教員5名、事務職員3名(教育活動評価:対象外)

※事務職員は、事務長、事務部学科担当職員及び准看護学科教務事務各1名

《 総 括 》

学校全体（看護学科/准看護学科の平均値）は「4.1」ポイントで、評価項目を一部変更したことから単純な比較はできないものの、昨年度の「3.5」ポイントより 0.6ポイント上昇した。また、項目別での最高は「財務管理」の「4.4」、最低は「V 人材育成」の「3.7」となり、いずれも昨年度を上回った。

評価が上がった要因としては、コロナ禍以降中止していた行事の再開、看護学科、准看護学科ともにカリキュラム（教育課程）改正に伴う指導内容変更への対応が平準化してきたこと、さらに、それらを踏まえた振り返りや見直しなど、様々な場面において新たな取り組みが進んできた結果と考える。

「看護学科」においては、開校以来初めてとなる「看護師国家試験」合格率100%を達成するとともに、「准看護学科」においては、2年連続で「福島県准看護師資格試験」の合格率100%を達成することができ、さらに、両学科ともに就職希望者（准看護学科における看護学科への進学者を除く）については、全員を看護の現場へ送り出すことができたことから、本校「学則」に定める目的「生命の尊厳と人間尊重を基盤として、豊かな感性を培い、科学的根拠と論理的思考に基づいた専門的知識・技術を用いて、地域の保健・医療・福祉において質の高い看護を提供できる人材の育成」を実現することができたと考えている。

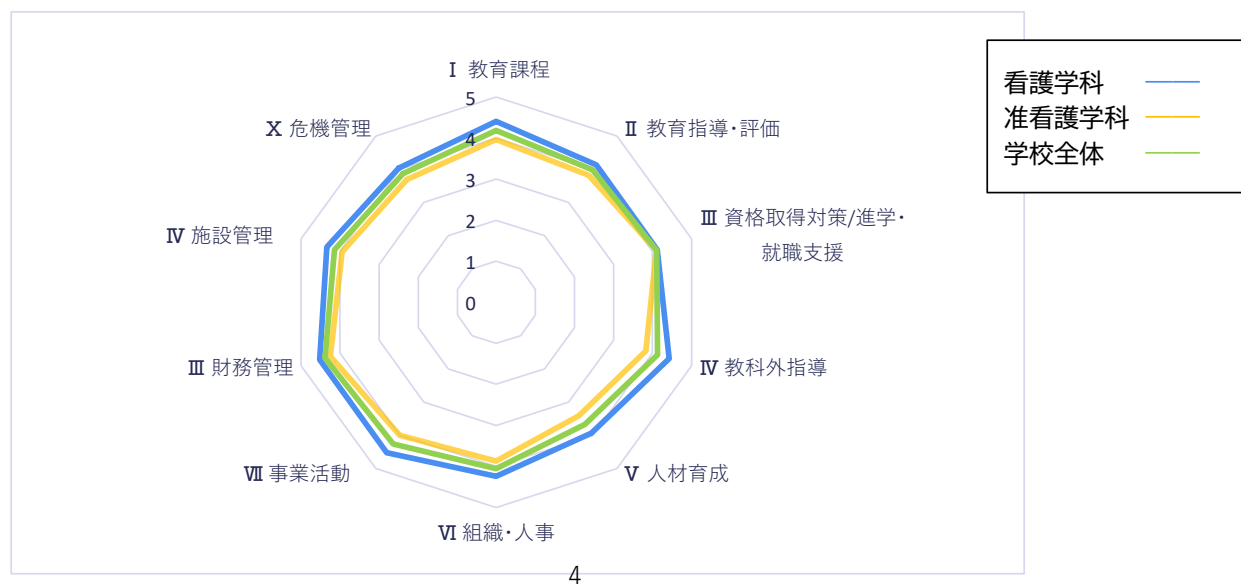
今後においては、「看護職」を取り巻く環境が大きく変化している現状を踏まえ、組織のあり方を含めた長期的視野に立った検討に取り組んでいきたい。

《項目ごとの評価点》

項 目		看護学科	准看護学科	学校全体	令和5年度
教育活動	I 教育課程	4.4	4.0	4.2	3.7
	II 教育指導・評価	4.1	3.8	4.0	3.6
	III 資格取得対策/進学・就職支援	4.1	4.1	4.1	3.7
	IV 教科外指導	4.4	3.8	4.1	3.4
	V 人材育成	3.9	3.4	3.7	2.9
管理運営	VI 組織・人事	4.2	3.9	4.1	3.6
	VII 事業活動 ※学生生活支援を含む	4.5	4.0	4.3	3.3
	III 財務管理	4.5	4.3	4.4	3.7
	IV 施設管理 ※教材を除く	4.3	4.0	4.1	3.7
	X 危機管理	4.0	3.7	3.9	3.7
平 均		4.3	3.9	4.1	3.5

※ 学校全体の数値は、当該表記載データの平均ではなく各項目データからの積算値

※ 令和6年度から評価項目を変更したため令和5年度の数値は参考値



※ 本評価に基づき、以下のとおり改善に取り組むこととしたい。

【教育活動】

I 教育課程

「看護学科」においては令和5年度から、「准看護学科」においては令和4年度から、新カリキュラム（教育課程）が開始され、それぞれ卒業生を輩出したことから、これまでの教育内容に関する評価と課題の抽出、それらに基づく改善に努め、更なる教育の「質」向上を目指していきたい。

II 教育指導・評価

教育の基盤である「教育課程」を学生・生徒へ伝え、定着させるには、より具体的な教育方針（カリキュラムポリシー）や教育概念に基づく教科指導が重要となることから、個々の課題を共有しつつ組織として改善に繋げていける職場環境の構築に取り組んでいきたい。

III 資格取得対策 及び 就職・進学支援

「看護学科」「准看護学科」とともに、国家試験・資格試験合格率、就職・進学率ともに100%という結果に満足することなく、学生・生徒にとって更なる「上」を目指せる支援体制を整えていきたい。

IV 教科外指導

特別活動や自主活動などは、教育現場において「従」と捉えがちだが、主である「学びを支える強い力」となる。また、生活・保健指導は個々の状態により対応が異なり正解が無いとも言われるように、ある意味「教科外指導」は通常の教科指導よりも複雑繊細で難しい側面を有していることから、幅広い研修等への参加を促していきたい。

V 人材育成

上記「I 教育課程」から「IV 教科外指導」の全ての項目において重要となってくるのが「人材育成」であるが、特にコロナ禍以降は低調であることから、職場における「学び」のための環境づくりから取り組んでいきたい。

【管理運営】

VI 組織・人事

「郡山医師会立」の看護養成学校として、まずは設置目的にそった人材を輩出していくとともに、変化する社会ニーズに即した新たな組織のあり方検討に取り組んでいく。

VII 事業活動

近年の社会情勢の変化（少子化、教育の大学化等）に伴う入学生の減少を踏まえ、新たに取り組んできた各種制度や支援事業の充実を図るとともに、デジタル社会に対応する広報強化など、これまで以上に「魅力ある学校づくり」に向け、学校だけではなく医師会の協力のもと組織全体での取り組みを進めていきたい。

VIII 財務管理

入学生確保と財源確保は、学校経営にとって表裏一体ではあるものの、医師会における公的支出の大部分を担っていることを踏まえ、地域における「看護職」養成という役割を果たすためにも適正管理に努めていく。

IX 施設管理

「郡山看護専門学校」として施設の適正管理に努めるとともに、施設の無料貸し出しなどに積極的に取り組むことで、より親しみやすい「地域」の看護学校として、地域連携に向けた役割を果たしていきたい。

X 危機管理

災害は「起きない」のが一番だが、「もしも」に備えた「危機管理体制づくり」に努めるとともに、隣接している「郡山市医療介護病院」（医師会指定管理）との連携により、「医療関連施設」として出来る対策を講じていく。

看護学科

(専門課程 / 2年)

看護学科においては、近年、入学生確保対策として、県外を含む市外からの入学生を積極的に受け入れており、今年度における学生数は、定員80名（1、2年各40名）に対し、73名（4月9日現在）、充足率 91.3%と、高い水準を確保できたものの、「入学生の確保」という視点で見ると、「令和7年度」の入学生は20名、2学年の合計では56名（充足率 70%）となることを踏まえ、今後においては、「教育課程」や「指導・評価」等による教育の「質」向上、「資格取得対策、就職・進学支援」「教科外指導」さらに「学生生活支援事業」の充実など、あらゆる場面において学生を支える体制整備の充実が求められていると思う。

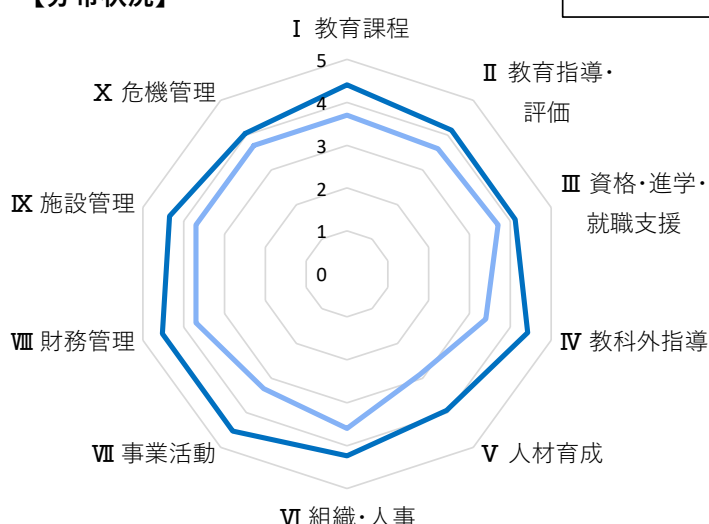
このような中において、看護師国家試験の合格率100%を達成できたことは、教育活動はもちろんのこと学校全体として学生を支援する体制を整え、取り組んできた結果であると考えている。

《項目ごとの評価点》

項 目		R 6	R 5
教育活動	I 教育課程	4.4	3.7
	II 教育指導・評価	4.1	3.6
	III 資格・進学・就職支援	4.1	3.7
	IV 教科外指導	4.4	3.4
	V 人材育成	3.9	2.9
管理経営	VI 組織・人事	4.2	3.6
	VII 事業活動 ※学生生活支援含む	4.5	3.3
	VIII 財務管理	4.5	3.7
	IX 施設管理 ※教材を除く	4.3	3.7
	X 危機管理	4.0	3.7
平 均		4.3	3.5

※令和6年度から設問内容が一部変更になったため、令和5年度については参考値

【分布状況】



【教育活動】

I 教育課程

新カリキュラム（教育課程）が開始されて初めての卒業生を輩出した。

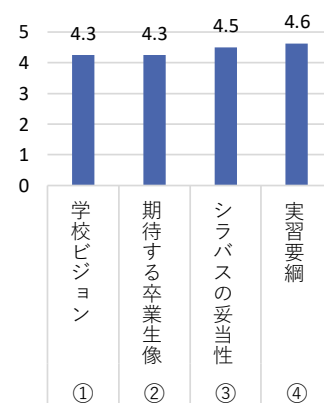
新カリキュラムに基づき、ディプロマシーを意識して学習指導にあたり、学生一人一人の力に合わせた内容や方法を学科全体で共有しながら取り組んだ。

なお、学習状況が芳しくなく単位未修得が予測される学生へは、個別の学習支援を検討するなど、今後は更に指導の実践を重ねた上で、それらの検証を行い、良い結果に繋げていきたい。

《主な意見》

- ・ カリキュラム改正にあたり教育目標を意識し、その後も常に念頭に入れている。
- ・ 学生の特性に合わせ学年目標が立案され、到達されるよう指導に努めている。
- ・ 全ての学生が到達しているわけではないが、多くは達している。
- ・ シラバスは、毎年度検討し修正している。

I 教育課程



II 教育指導・評価

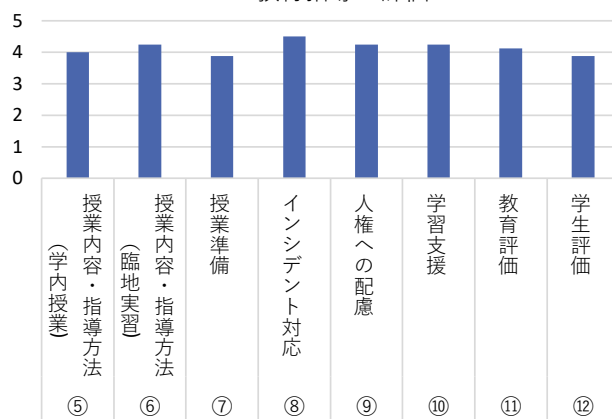
指導や学習支援、各種対応にあたっては、教員それぞれがより良い指導方法を研究し適切に対応するとともに、学生及び外部講師アンケート(任意)等の結果に基づき、更なる改善に取り組んだ。

なお、今回出された意見については、学生・施設・教員それぞれの学習環境・指導環境が改善されるよう、組織全体で共有するとともに検討、対応していきたい。

《意見》

- ・指導にあたっては、教員一人一人が工夫している。
- ・概論や法制度など関心が持てない内容の講義は、もっと工夫をしなければならないと思う。
- ・実習指導者と連携を取りながら、目標の到達に向け関わることができている。
- ・臨地実習時は時間に変則になることが多いことから、検討してほしい。
- ・従来どおりの教材活用だけで、IT化への対応ができていない。
- ・インシデント対応については、適宜対応ができていると思う。
- ・学習支援については、個別対応ができている。(国試合格100%に繋がっている。)
- ・対応(学習指導)はしているが、休学、退学者が出ている。
- ・(教員評価のほか学生や外部講師(任意)等への)アンケート結果に基づき、振り返りを行っている。

II 教育指導・評価



III 資格取得対策 及び 就職・進学支援

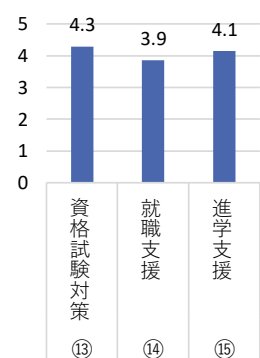
看護師国家試験については卒業生 33名全員が合格となり、合格率 100% (2年課程 全国 91.2% / 福島県 91.7%) を達成した。これは専任教員 及び 国試対策を依頼した講師による手厚い資格試験対策、業者模試の活用の他、カリキュラム改正において国家試験に対応したシラバスや実習要綱としたことなどが要因と考えている。

また、全員が「就職」(100% / 郡山市内 19名 / 県内 7名 / 県外 7名) することができたが、入学者の広域化に伴い、市外、県外への就職者が増加傾向にある。

《意見》

- ・臨地実習の課題等に時間が取られ、個々の学生に合った支援が難しくなっている。
- ・本人の希望に沿った適切なアドバイスを心掛けている。
- ・卒業生の約半数が郡山市外へ就職している。入学生の確保対策として市外からの志願者を受け入れている現状もあるが、市内に就職、定着してもらえる方策を考えていきたい。
- ・(本校は進学希望者が少なく進学支援) 担当はなく、相談を受けたときのみ対応している。

III 国家試験対策、就職・進学支援



IV 教科外指導

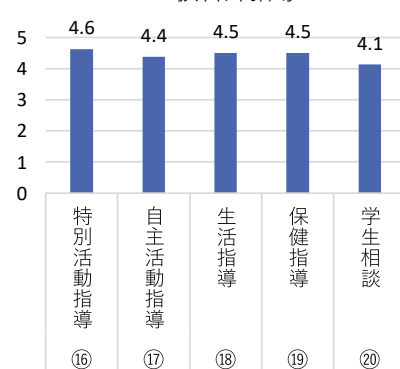
コロナ禍後初となる学生主体の「学校祭〜ミニ運動会・バレーボール大会」を開催し、学科・学年、学生、教職員の垣根を越えた交流と親睦を深めることで、新たな連携に繋げることができた。

また近年、精神面での不調や家庭環境など、学生生活に問題を抱える学生が増えているが、相談、個別面談、カウンセリング等により、心身両面から学生を支える体制を整えることができたと考えている。

《意見》

- ・学生それぞれの特性を引き出し伸ばしていけるよう教員相互が協力し合っている。
- ・学生個々の背景を理解しながら指導している。
- ・学生の自主性を引き出すのは難しい。

IV 教科外指導



V 人材育成

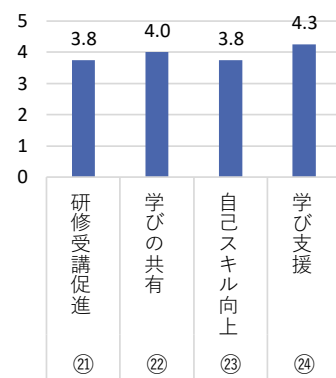
コロナ禍以降、研修等への参加は減少していたが、今年度においては「看護管理者認定講習ファーストレベル」へ教員を派遣するとともに、各種研修会等への参加促進を図り、それらを所属で共有した。

今後は、さらに自己研鑽のための取り組みを支援し、教育力向上のためのフィードバックを期待したい。

《意見》

- ・「認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修」へ教員1名を派遣した
- ・当初は消極的だったが、年度途中から促されるようになった。
- ・教務会議で学びの共有を行ってはいるが、そもそも研修を受ける人が少ない。
- ・スキルアップを勧められれば拒むことはないと思う。
- ・予算と時間の確保が難しい。

V 人材育成



【管理運営】

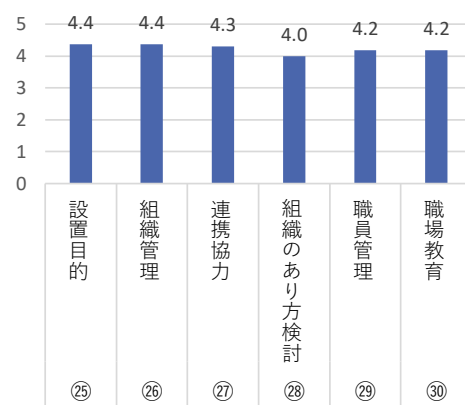
VI 組織・人事

郡山医師会立の看護学校として、設置目的に沿った学校運営に努めているが、社会ニーズの変化など組織のあり方を再検討する時期に来ていると感じている。

《意見》

- ・設置目的に基づき、多くの卒業生を輩出し地域に貢献できている。
- ・各所(医師会事務局/市医療介護病院)との関係性や社会ニーズの変化についてよく分からないので、勉強して即応できるように努めたい。
- ・臨地実習施設や講師派遣など、日頃から協力を得ることができている。
- ・(准看護学科から看護学科へ進学という)本校の体あり方は、現在の社会状況に合っていないように感じる。
- ・配置基準にあった人員配置ではあるが、業務量が多く全員多忙である。
- ・個人情報保護やハラスメント防止に向けては、職員自らの気づきを活かした注意喚起に取り組んでいる。

VI 組織・人事



VII 事業活動

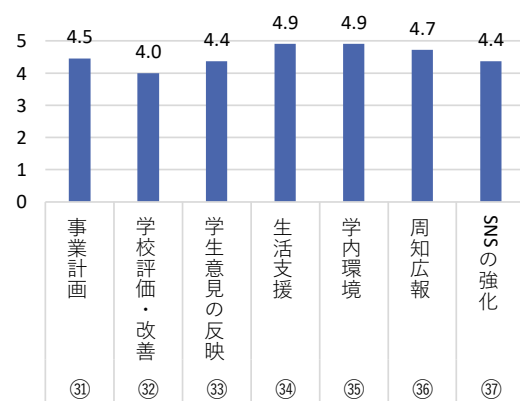
事業計画に基づき、学生支援事業(本校独自の奨学給付金、校内販売及びそれに対する助成、食料支援等)の拡充を図った。

また、今年度においては、学校改善に向け評価の見直しを行ったほか、入学生確保対策としてホームページの改編とともにLINE等を活用したSNS広報の強化に取り組んだ。 ※両学科共通

《意見》

- ・振り返りがしっかり行われ、次年度への計画に反映されている。
- ・次年度に向けた学校評価の見直しにより、評価の目的やあり方が理解されてきているように思う。
- ・学校評価の内容を、次年度の検討・改善に繋げている。
- ・学生の意見を聴くツールを設け、その内容を検討し採用又は対応を公表するなど、学内環境の改善に繋げている。
- ・職員、関係者、企業等の協力により、十分かつ細やかな支援(奨学給付金、校内販売、食料品配布等)ができている。
- ・物価が高騰する中で、「食料品の配布」は学生から「助かる」との声が多く出されていた。
- ・HP改編や公式LINEなど広報の抜本的な改善が図られ利便性が向上した。今後はSNS活用の拡大など更なる利活用を進めたい。

VII 事業活動

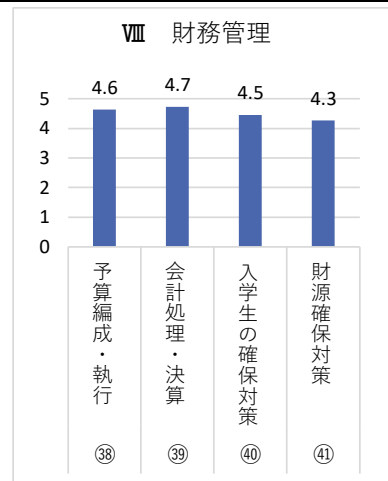


VIII 財務管理

予算・決算、会計処理等については適正に執行されており、特に問題は無いものの、医師会一般会計からの繰り入れ及び県運営費補助金等により収支のバランスが取れている現状を踏まえ、医師会員等への寄附募集を行うなど財源確保に取り組んでいる。今後における入学生の確保が鍵となる。

《意見》

- ・ 予算・決算管理(編成、執行、監査等)、会計処理等は正確かつ適正に行われている。
- ・ 予算の確保ができず更新できない設備がある。
- ・ 入学生の確保に向け、管外からの入学生の確保など十分取り組んでいると思う。ただ、少子化と看護教育の大学化には抗えない。
- ・ 高等教育新制度の活用や管外志願者の確保などに積極的に取り組んでいるが、実質的な入学生の確保(令和7年度)には繋がっていない。
- ・ (現在実施している)奨学生制度等の各種支援事業を、「学費生活のモデルプラン(案)」などで広報の前面に押し出し、志願者に訴える提案手法の検討など、入学生確保に向けた取り組みを拡大していきたい。
- ・ 入学生の確保や財源確保に向け、困難な社会情勢の中において、出来る限りの対策に取り組んでいると思う。
- ・ (入学生が減少する)厳しい状況の中、医師会との連携(繰り入れ)により、運営(財源確保)されている。



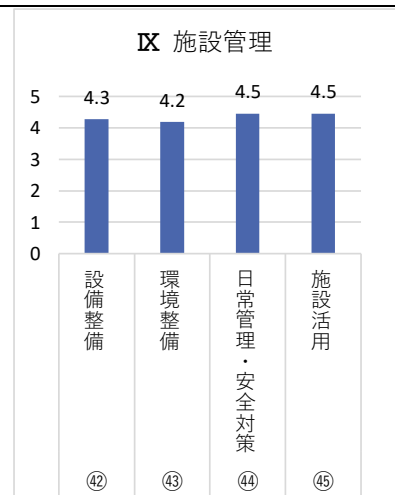
IX 施設管理

自主点検・法定点検等の適正実施により安全確保を図るとともに、教職員による定期的な点検・確認を徹底している。また、校舎内清掃、敷地内美化など施設の適正な維持管理に努めている。

さらに、施設や設備を学生のほか、医師会員等関係者に無料で貸し出す施設活用を図っているが、これらを更に地域連携に繋げていけたらと考えている。

《意見》

- ・ 校舎の清掃、定期的な除草など環境整備は行き届いている。
- ・ 駐車場や倉庫などは整備できなかったもので、次年度においては計画的に実施したい。
- ・ 多くの来校者が感心されるので、施設管理はしっかりできていると思う。
- ・ 朝夕の点検により、日常の安全確認に努めている。
- ・ 各法定点検を適切に実施するとともに、校舎建設後10年余が経っていることから、適宜点検を行い、安全確保に努めた。
- ・ 関係者へ会議室や教材等を貸し出す施設活用を積極的に取り組んでいる。学校行事とともにこの施設活用の取り組みを、地域の方々との良好な関係構築に繋げていきたい。



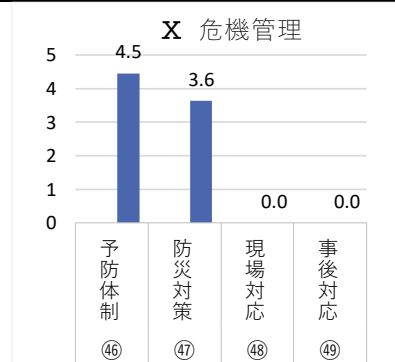
X 危機管理

「危機管理マニュアル」に基づき、災害や感染症等に対する予備知識や対応について組織全体で共有するとともに、備蓄品の整備や消防・防災訓練の実施などを計画的に行うことで、確実な防災対応ができる予防体制の構築に努めている。

なお、予定していた郡山市医療介護病院との合同防災訓練については、病院の都合により未実施となったが、今後においても郡山医師会立の看護学校として、地域連携に向けた取り組みを継続していきたい。 ※両学科共通

《意見》

- ・ 災害等に備え、連携に取り組んでいる。
- ・ 隣接する郡山市医療介護病院(郡山医師会指定管理)との合同防災訓練を計画していたが、病院訓練が中止となったことから実施が出来なかった。次年度は計画的に進めたい。



◆ 今後に向けて

新カリキュラム（教育課程）での初めての卒業生を送り出すこととなったことから、その内容の妥当性 及び 教材や時間配分など具体的な指導方法等について、検証を行い、見直しを図る必要がある。

令和 5、6 年度における実績等を踏まえ、今後においては、あらゆる視点、様々な方向から検証を重ね、本校「看護学科」における看護教育のさらなる質の向上を図っていきたい。

（Ⅰ 教育課程 / Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅲ 資格取得対策、進学・就職支援 / Ⅳ 教科外指導）

コロナ禍以降、取り組みが進んでいなかった学外研修や学会等への参加を促すとともに、個々の指導スキルの向上 及び それぞれの個性を活かした指導力の強化を図っていきたい。

さらに、次年度に向け、「学校評価」全体の見直しを検討するとともに、「業績評価」の導入についても検討を開始しており、今後におけるあり方について具体的な方向性を提示したい。

※両学科共通 （Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅴ 人材育成）

全国的に「看護職」を目指す人が減少する中、本校並びに県内看護職養成施設においても「定員割」となっている現状を踏まえ、安定した学校運営に不可欠な「入学生の確保」に向け、指導体制など教育活動はもちろんのこと、今後における組織のあり方検討を含めた根本的な見直しが必要と考えている。

（Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅵ 組織・人事 / Ⅶ 事業活動 / Ⅷ 財務管理）

急速に進むD X化やデジタル世代の志願者に対応するため、今年度において「ホームページ」のリニューアルを行うとともに、SNS等デジタル広告の強化に取り組んだ。

これにより、LINE、Instagram、Facebookなどを活用した校舎3Dデジタルツアーの配信 及び ターゲティング広告、リスティング広告などを開始したが、一定の効果を得られたと考えている。

※両学科共通 （Ⅶ 事業活動 / Ⅷ 財務管理）

郡山医師会員、郡山市医療介護病院、さらに臨地実習施設などと、より良い関係を構築することで「看護教育」という分野のみならず、地域連携、防災等危機管理における本校の役割を果たしていきたい。

※両学科共通 （Ⅵ 組織・人事 / Ⅸ 施設管理 / X 危機管理）

学校関係者評価

- 定員80名に対し、令和 5 年度においては 67 名（4.7 現在）で 充足率 84%、令和 6 年度においては 73 名（4.9 現在）で 充足率は「91.3%」と、「学生数」については高い水準を保っているが、その反面、令和 7 年度の入学生については「20 名」となっており、かなり厳しい状況である。

これは全国的な問題ではあるものの、学校運営に「入学生の確保」＝「財源確保」は必須であり、今後における「組織のあり方検討」を含め、最重要課題として取り組むこと。

- 「看護師国家試験」の合格率 100%は素晴らしい。
ただし、それ以前の課題として、「学業について行けない学生の指導をどうするか？」がある。今年度において、休学者・退学者が 6 名いることに留意しなければならない。
今後は、「入学生の確保」という管理運営上の課題と、「学生の質の確保」という教育活動上の課題との組み合わせが求められることとなる。
それらへの対策をどう講じていくかについて、組織全体で考え、具体的な取り組みを進めること。

- 学生への支援事業も積極的に行われており、以前よりも校内が明るくなったように感じられるが、建物の老朽化対策については計画的に進めること。

また、ホームページも新しくなり、広報のデジタル化への対応についても特段に向上したが、これからは「何をどのように発信していくか」が重要となるので、ここで終わりではなく、継続した情報発信に取り組むこと。 ※両学科共通

准看護学科

(高等課程 / 2年)

准看護学科においては、本来の目的である「准看護師」養成に加え、併設している「看護学科」（専門課程）の入学生確保という役割も担っている。さらに近年は、社会における働き方の変化に対応するため「社会人枠」を拡大するなど、新たな体制づくりに取り組んではいるが、今後においても志願者の減少が見込まれている。

このような中、2年続けて「准看護師資格試験」の合格率100%を達成できたことは、ひとつの「成果」として評価できると考えている。しかし、その裏でかなりの数の休学・退学者が出ていることから、指導方法の見直しが求められていることも事実として認識し、職場教育、人材育成を含めた組織改善に取り組んでいきたい。

なお、本校における「看護職」養成課程のあり方について、根本的な見直しを求める声も出始めているが、教育課程の内容や指導方法の精査、学生支援事業の充実など、生徒にとって「今 必要なこと」、そして学校が「今 やらなければならないこと」から取り組んでいきたいと考えている。

《項目ごとの評価点》

項 目		R 6	R5
教育活動	I 教育課程	4.0	3.7
	II 教育指導・評価	3.8	3.6
	III 資格・進学・就職支援	4.1	3.7
	IV 教科外指導	3.8	3.4
	V 人材育成	3.4	2.9
管理経営	VI 組織・人事	3.9	3.6
	VII 事業活動 ※学生生活支援含む	4.0	3.3
	VIII 財務管理	4.3	3.7
	IX 施設管理 ※教材を除く	4.0	3.7
	X 危機管理	3.7	3.7
平 均		3.9	3.5

※令和6年度から設問内容が一部変更になったため、令和5年度については参考値

【分布状況】



【教育活動】

I 教育課程

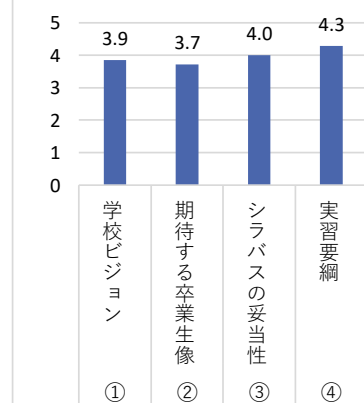
「教育課程」については、生徒が看護の初心者であることを踏まえ、「准看護師」に必要とされる知識と技術のほか、医療に携わる者としての倫理観に重きを置くことで、本校「教育理念」に示す「生命の尊厳と人間尊重」への理解に繋げることができた。

また、「期待する卒業生像」に示す「看護を実践する力」は、「自ら学ぶこと」「人間理解」などが基盤となることから、本校の特徴である 社会人経験者を含む 幅広い年齢層の生徒がお互いを尊重し、協力し合う体制を整えることにより、「教育目的」に定める「地域に貢献できる人材」を育成することができたと考えている。

《意 見》

- ・ 教育理念等は、教育内容の指針としている。
- ・ 地域で必要とされる人材として卒業生（就職・進学）を輩出できたと思う。
- ・ シラバス、実習要綱は、次年度に向け課題の洗い出しを行い、見直しを図っている。

I 教育課程



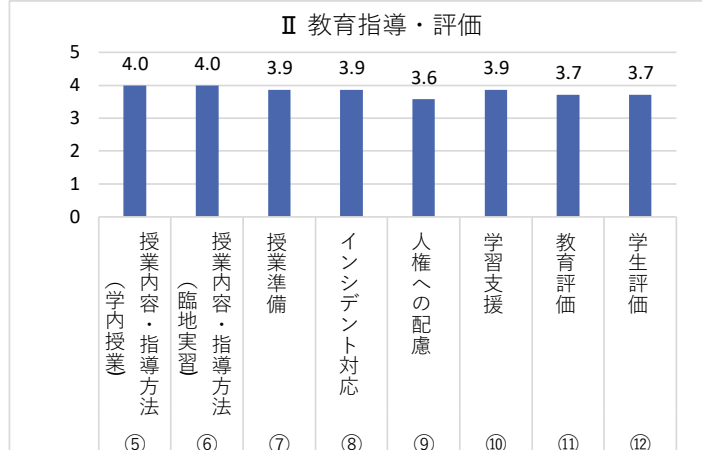
II 教育指導・評価

准看護学科における新カリキュラム（教育課程）が開始され4年が経過し定着してきた感はあるが、毎年度、見直し・修正を加えながら指導にあたっている。

前年度においては「学生指導上での人権への配慮」について改善を求める意見が出されたが、今年度においては「実習指導」にあたっての投書があり、自己評価との乖離が見られる。VI 組織・人事 ⑩職場教育における取り組みとして、研修等により個々人の対応スキルの向上に努めるとともに、教務会議を通し組織として共有するシステムづくりに取り組みたい。

《意見》

- ・ 学びやすいよう講師の選定に配慮している。
- ・ 授業進度について調整が必要と感じるときがあった。また、教員の配置や協力体制に課題があると思う。見直しが必要。
- ・ 外部講師を含め、授業準備等は協力しながら行えた。
- ・ （インシデント対策は）報告から指導まで適切に行われていた。
- ・ （人権への配慮については）教員から生徒に対し一方通行的な指導が見られた。相互理解が必要だと思う。
- ・ 今年度より授業評価（学生/講師）を実施した。ただ実施するだけではなく結果を全体で共有し改善に繋げていくことが重要。
- ・ 「投書」の内容について共有し、改善してほしい。



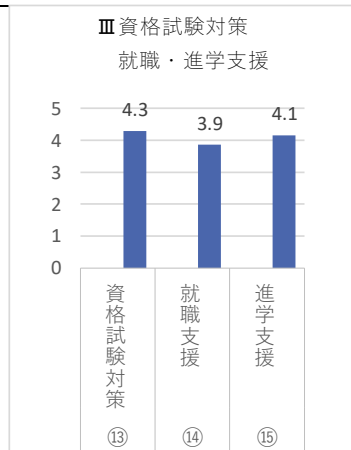
III 資格取得対策 及び 就職・進学支援

教員による丁寧な資格試験対策により、「福島県准看護師試験」の合格率は100%（全国98.6%）で、2年連続で合格率100%を達成した。

また、進学（本校「看護学科」）、就職についても100%となったが、今後においては、生徒の希望に沿った進路となるよう早い段階から声かけを行うなど、計画的な支援のあり方について検討していきたい。

《意見》

- ・ 資格試験合格率100%を達成。一人一人に合った指導をすることができた。
- ・ 就職・進学ともに100%決定できた。ただし、指導が遅くなる傾向が見られた。
- ・ 就職については、もう少し早い時期から相談できる環境を整える必要がある。
- ・ 進学希望の生徒に対して、資格試験後（専門課程）を見据えた支援が必要。



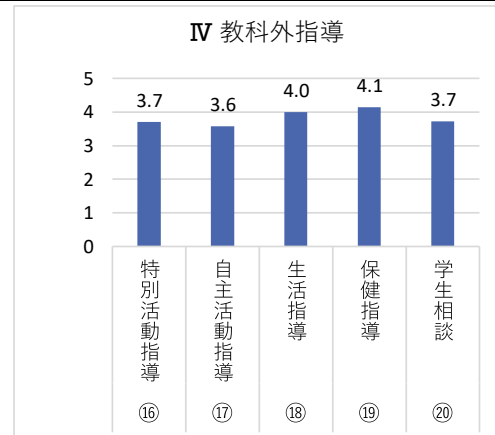
IV 教科外指導

コロナ禍後初となる生徒主体の「学校祭～ミニ運動会・バレーボール大会」を開催し、学科・学年、学生、教職員の垣根を越えた交流と親睦を深めることで、新たな連携に繋げることができた。なお、「准看護学科としての“主体性”をいかに引き出していくか」を工夫していきたい。

また近年、精神面で不調や家庭環境などに問題を抱える生徒が増えていることから、入学後全員にカウンセリングを行うことで、その後における生徒を多角的に支える体制を整えることができたと考えている。

《意見》

- ・ 学校祭の開催は、生徒を笑顔にする「良い」行事になったと思う。
- ・ 特別活動や自主活動については、教員主導になることが多かったことから、生徒自らが主体的に活動に取り組むため指導を心掛けていきたい。
- ・ 教員相互の協力体制が、あまり整っていないように思う。
- ・ 人権に配慮した生活指導や個々の背景を捉えた細やかな保健指導ができた。



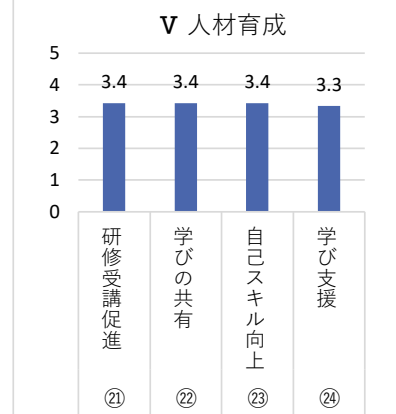
V 人材育成

コロナ禍における対外行事の縮小、加えて、教員配置の変更に伴う新たな業務への対応などもあり、研修等への参加は減少したままとなっている。

一部復活できたものもあることから、次年度においては、各種研修会等への参加促進を図り、さらに自己研鑽のための取り組みを支援することで、教育力向上のためのフィードバックを期待したい。

《意見》

- ・ 外部団体への研修協力を行った。
- ・ 自己研修への参加が少ない。
- ・ 指導力の向上に向けた研修への参加が少ないため、学びを共有する機会も少ない。
- ・ 業務調整に努めるなど一人一人が自己研鑽に取り組む環境を自らが作る努力が必要。



【管理運営】

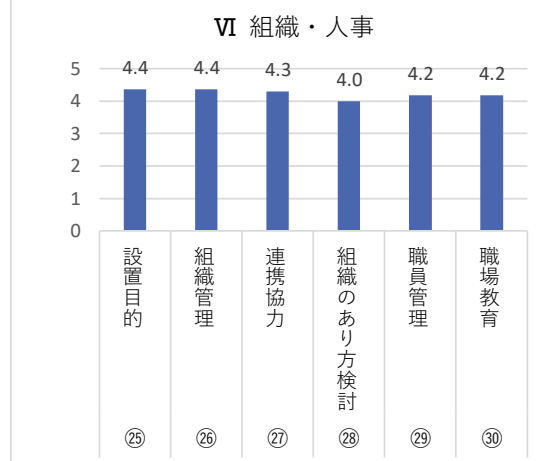
VI 組織・人事

郡山医師会立の看護学校として、設置目的に沿った学校運営に努めているが、社会ニーズの変化など組織のあり方を再検討する時期に来ていると感じている。

特に、「准看護師」養成に関しては、郡山医師会として携わってきたこれまでの歴史と、日本看護協会が進める「看護師」資格への一本化との兼ね合いなど、複雑な位置にある。

《意見》

- ・ 組織のあり方検討はされているが、具体的な方針提示に至っていない。
- ・ 医師会立として組織体制を一元化することで改善(効率化)されることがあると思う。
- ・ 職員配置（学科、学年担当）の考え方や構想がよく分からない。
- ・ ハラスメント対策の体制は整備されているが、重要なのは具体的な対処方法や指導のあり方であり、それらに必要な一人一人の意識改革を促す取り組みが不足しているように思う。



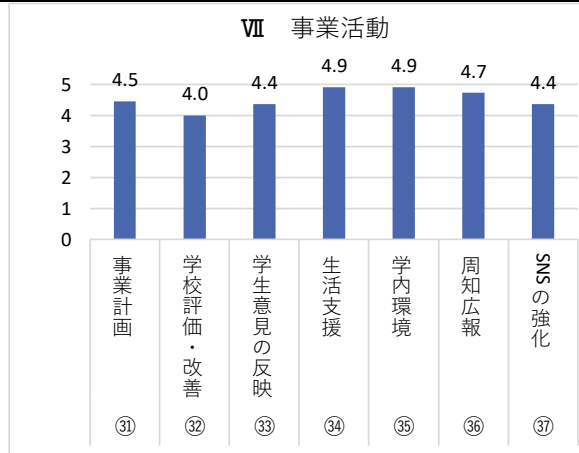
VII 事業活動

事業計画に基づき、学生支援事業（本校独自の奨学給付金、校内販売及びそれに対する助成、食料支援等）の拡充を図った。

また、今年度においては、学校改善に向け評価の見直しを行ったほか、入学生確保対策としてホームページの改編とともにLINE等を活用したSNS広報の強化に取り組んだ。 ※両学科共通

《意見》

- ・ 次年度に向けた学校評価の見直しを行ったが、評価に係る認識にズレがあるように感じられた。
- ・ 学生の意見を聴くツールを設け、その内容を検討し採用又は対応を公表するなど、学内環境の改善に繋げている。
- ・ 職員、関係者、企業等の協力により、十分かつ細やかな支援(奨学給付金、校内販売、食料品配布等)ができている。
- ・ HP改編やデジタル広告の導入など広報の利便性が向上した。今後はデジタル広告に注力していきたい。



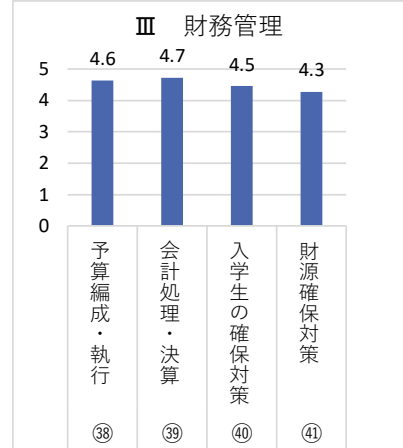
III 財務管理

予算・決算、会計処理等については適正に執行されており、特に問題は無いものの、医師会一般会計からの繰り入れ及び県運営費補助金等により収支のバランスが取れている現状を踏まえ、医師会員等への寄附募集を行うなど財源確保に取り組んでいる。

さらに、入学生の確保に向け、福島県離職者等再就職支援事業の受託などにより社会人枠の拡大に努めてはいるものの、実質的な入学生の確保には繋がっていないことから、今後における入学生の確保対策が重要な課題である。

《意見》

- ・ 予算・決算管理(編成、執行、監査等)、会計処理等は正確かつ適正に行われている。
- ・ 入学生の確保や財源確保に向け、困難な社会情勢の中において、出来る限りの対策に取り組んでいると思う。
- ・ (入学生が減少する) 厳しい状況の中、医師会との連携(繰り入れ)により、運営(財源確保)されている。
- ・ 生徒の学習意欲に繋がる奨学給付金の財源確保に向け、寄附金を募るなど医師会員等との協力体制を整えている。



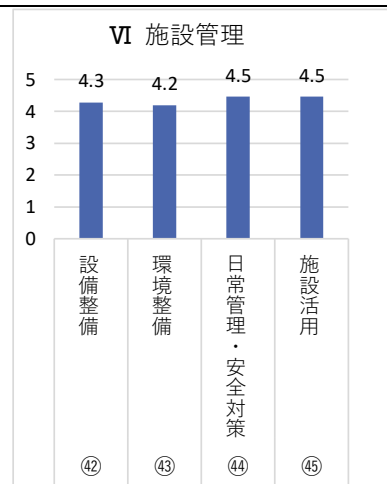
VI 施設管理

自主点検・法定点検等の適正実施により安全確保を図るとともに、教職員による定期的な点検・確認を行っている。また、校舎内清掃、敷地内美化など施設の適正な維持管理に努めている。

さらに、施設や設備を学生のほか、医師会員等関係者に無料で貸し出す施設活用を図っているが、これらを更に地域連携に繋げていけたらと考えている。

《意見》

- ・ 網戸を設置してほしい。
- ・ 校舎の清掃、定期的な除草など環境整備は行き届いている。
- ・ 各法定点検を適切に実施するとともに、校舎建設後10年余が経っていることから、適宜点検を行い、安全確保に努めた。
- ・ 法定点検等は確実に行われている。日々の管理面では協力意識が必要。
- ・ 関係者へ会議室や教材等を貸し出す施設活用を積極的に取り組んでいる。学校行事とともにこの施設活用の取り組みを、地域の方々との良好な関係構築に繋げていきたい。
- ・ 施設等の有効活用がされている。関係者等へのアナウンス (PR) があるとさらに良いと思う。



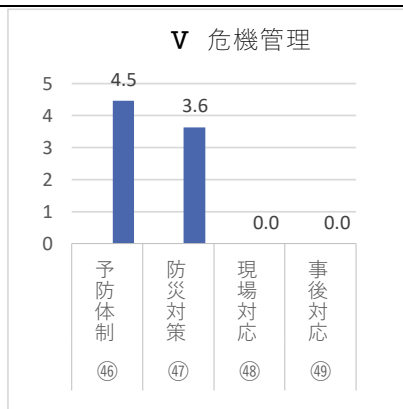
V 危機管理

「危機管理マニュアル」に基づき、災害や感染症等に対する予備知識や対応について組織全体で共有するとともに、備蓄品の整備や消防・防災訓練の実施などを計画的に行うことで、確実な防災対応ができる予防体制の構築に努めている。

なお、予定していた郡山市医療介護病院との合同防災訓練については、病院の都合により未実施となったが、今後においても郡山医師会立の看護学校として、地域連携に向けた取り組みを継続していきたい。 ※両学科共通

《意見》

- ・ 危機管理マニュアルの見直しなど、状況に合わせた体制づくりを行った。
- ・ 災害時等における危機管理対応を自分事として指導することが大事だと感じている。
- ・ 年度当初に再確認を行うなど、危機管理体制は整えてある。
- ・ 隣接する郡山市医療介護病院(郡山医師会指定管理)との合同防災訓練を計画していたが、病院訓練が中止となったことから実施が出来なかった。次年度は体制づくりから協力し計画的に進めたい。



◆ 今 後 に 向 け て

准看護学科においては、本来の「准看護師」を養成するという目的に加え、併設している「看護学科」（専門課程）に対する入学生輩出という役割も担っていることから、近年は、社会における働き方の変化に対応すべく「社会人枠」を拡大するなど新たな体制づくりに取り組んではいるものの、今後においても志願者数は低迷することが想定される。

このような中、本校における「看護職」養成のあり方について根本的な見直しを求める声も出始めていることから、教育課程の内容や指導方法の精査、学生支援事業の充実など、生徒にとって「今 必要なこと」そして 学校が「今 やらなければならないこと」から取り組んでいきたいと考えている。

その上で、今後における組織のあり方について、根本的な見直しを含め検討をしていきたい。

（Ⅰ 教育課程 / Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅲ 資格取得対策、進学・就職支援 / Ⅳ 教科外指導）

（Ⅵ 組織・人事 / Ⅶ 事業活動 / Ⅷ 財務管理 / Ⅸ 施設管理）

コロナ禍以降、取り組みが進んでいなかった学外研修や学会などへの参加を促すとともに、個々の指導スキルの向上及び 学生・生徒それぞれの個性を活かした指導力の強化を図っていきたい。

さらに、次年度に向け、「学校評価」全体の見直しを検討するとともに、「業績評価」の導入についても検討を開始しており、今後におけるあり方について具体的な方向性を提示したい。

※両学科共通 （Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅴ 人材育成）

急速に進むDX化やデジタル世代の志願者に対応するため、今年度において「ホームページ」のリニューアルを行うとともに、SNS等デジタル広告の強化に取り組んだ。

これにより、LINE、Instagram、Facebookなどを活用した校舎3Dデジタルツアーの配信 及び ターゲティング広告、リスティング広告などを開始したが、一定の効果を得られたと考えている。

※両学科共通 （Ⅶ 事業活動 / Ⅷ 財務管理）

郡山医師会員、郡山市医療介護病院、さらに臨地実習施設などと、より良い関係を構築することで「看護教育」という分野のみならず、地域連携、防災等危機管理における本校の役割を果たしていきたい。

※両学科共通 （Ⅵ 組織・人事 / Ⅸ 施設管理 / X 危機管理）

学校関係者評価

- 准看護学科 定員160名（1,2年 各80名）に対し、令和5年度においては 学生数 77名 / 充足率 47.9%、うち入学生数 28名（⇒ 年度末 58名 / 36.3% / △19名）、令和6年度においては 学生数 55名 / 充足率34.4%、うち入学生数 29名（⇒ 年度末 43名 / 26.9% / △12名）、また、令和7年度における入学生の確保については 22名（充足率 27.5%）となっており、かなり厳しい状況である。

「入学生の確保」にあたっては、他校に先行して「社会人枠」の拡大に取り組み、一定の成果はあったものの、根本的な「改善」には至っていないことから、「入学生の確保」に向け、今後における「組織のあり方検討」を含め、最重要課題として取り組むこと。

- 2年連続での「准看護師資格試験」合格率 100%は素晴らしい。

しかし、昨年度においては19名、今年度においても12名の休学・退学者が出ており、「学業についていけない」生徒をはじめとして、「家庭環境が複雑」「精神的に課題を抱えている」など、様々なリスクを負って入学してきた生徒への指導や対処方法が大きな負担となっている。

これら少子化の進行や専門学校（課程）の大学化等を背景とした「入学生の減少」に伴う、「生徒の質の確保」という新たな課題への具体的な取り組みについて、早急に検討すること。

- 学生への支援事業も積極的に行われており、以前よりも校内が明るくなったように感じられるが、建物の老朽化対策については計画的に進めること。

また、ホームページも新しくなり、広報のデジタル化への対応についても特段に向上したが、これからは「何をどのように」発信していくかが重要となるので、ここで終わりではなく、継続した情報発信に取り組むこと。

※両学科共通